

学校だより

やさしい子 たくましい子 考える子

1月号



# 黒門

令和5年1月10日

発行者 台東区立黒門小学校

校長 石田 隆

うれしいこと さすが黒門 ぎっしりと！

校長 石田 隆

## 心新たに新しい年を迎えられたことと存じます

植物の種子の状態を示すともいわれる『十二支』。今年の「卯(うさぎ)」は、**莖や葉が大きくなる状態を表す**という意味があるそうです。また、うさぎはキャラクターとして愛されたり、「**因幡の白兔**」や、「**うさぎとかめ**」のお話のように、失敗を通して私達に教訓を伝えてくれたりと、なじみ深い存在です。

新しい年を迎えた今、「卯年」に因んで、これまでに育ててきた「自分の芽」を自覚し、さらに大きく成長させるとともに、人を尊重しおおらかに接することで、「うれしいこと」をたくさん感じられる年にしていければと思います。今年もよろしくお祈いします。🍀

## 「自信がなくて授業の時に手をあげられない」

12月実施調査の児童アンケート「学校生活の中で、感じていることや思っていることを書いてください」という自由意見欄に、このような記述が複数ありました。私も子供の時に同じ思いを抱いていました。自分の意見を堂々と言える友達が羨ましかったです。大人は「**間違ってもいいから**」とか、「**教室は間違える所だ**」などと言いますが、子供だって、いや子供だからこそ、なかなか手はあげられないものです。

これまでも、多くの意見を吸い上げるためにペアやグループなどの少人数の意見交換を経て発言するという場面を設けてきました。今はそれに加えて、一人一台タブレット端末を用いることも有効だと感じています。クイズ番組のように、自分の意見をまず文字で表し一斉に提示したり、友達の考えに付箋を貼る感覚でコメントしたりする機能を使うことは本校でもすでに行われていますが、このように教師が子供たち一人一人のアウトプットの方法を増やしたり選択させたりするという視点をもつことが、子供たちの主体的な学びを保障する一つの手立てになるとあらためて考えさせられました。

児童・保護者アンケートは、全職員で共有し、児童の実態やこれまでの経緯を見つめ振り返り、今後の教育活動の参考にさせていただきます。また学校の取組や現状をさらにご理解いただけるように情報を発信に努めて参ります。(学校評価値の詳細はHPで公表致します)

## 一体感を味わえた餅つき ありがとうございます！

二学期最終日。育ての会主催の「もちつき会」が体育館で行われました。今年度も児童一人一人が杵を持って、「よいしょ！ よいしょ！」とつきました。先生や友達を応援する声と笑顔が広がりました。

下校時に、玄関に飾られた(つきたてのお餅<sup>もち</sup>で作られた)「鏡餅」に興味津々の子供たち。「え!? さっきついたおもち?」「さわってもいいですか?」と驚いたり人差し指をお餅に近づけたり。実際にお餅をつくという貴重な経験で嬉しい一年の締めくくることができました。感染予防対策を徹底し、実行して下さった育ての会の皆様へ感謝申し上げます。